

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

東京都 板橋区立赤塚第三中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実 施 内 容

■期 日 : 2020年10月19日(月)、20日(火)

■ク ラ ス : 8年A組(37名)、8年E組(37名)、8年F組(36名)

■オリンピアン : 桧野 真奈美 先生(ボブスレー)【出場オリンピック/トリノ大会、バンクーバー大会】

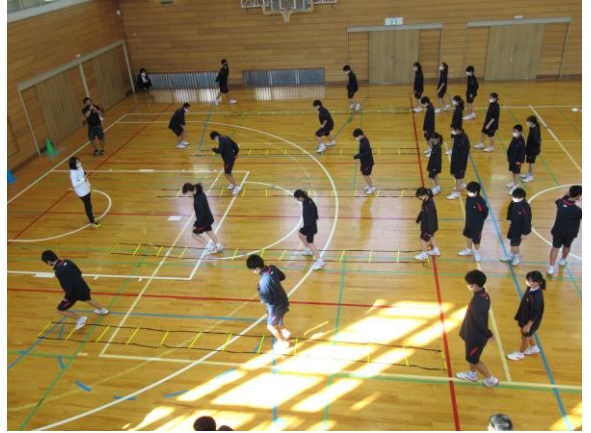
■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、オリンピックの価値は特別にオリンピックだけのためにあるのではなく、日常生活の中にもたくさんあり、皆にとっても大切なものであると話し、準備運動に移る。ラダートレーニングでは、失敗をしても一生懸命チャレンジすることが大切であること、ロープの乱れを皆で直していたことは、思いやりがあり良かったと伝え、主運動に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・チーム対抗で行う「トライリレー」を実施。後ろ向きで1列に並び、ボールを頭上から後ろの人にパス、折り返したら再度後ろ向きに並び、今度は足の間からパスをする。3種目は、ダブル、スキップ、片足跳びの中からひとつを選び、一人ずつ走る。途中作戦タイムを設け、相手を取りやすいボールを投げる、早く進む種目を多くする、ボールを渡す時は声を出す等、工夫をしながら行ったことは、オリンピックバリューに繋がると伝えた。

4. まとめ



・一生懸命やるかやらないかは自分が選べるので、チャンスがあるなら一生懸命やることを選んで欲しい。次の座学の時間でも、オリンピックバリューについて詳しく話すので、運動の時間に考えたことを振り返りながら学んで欲しいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・オリンピックで使用したウェア、ヘルメット、シューズを披露。オリンピックの映像を見ながら、競技中は体感速度が600kmにも及ぶこと、それに2人に乗る理由は、2人にはそれぞれ役割があり、協力し合うからこそ競技ができるなど、すべてがオリンピックバリューに繋がる。今まで三度の挫折を味わってきたが、「本気で頑張っているから悩むのだ」と気づき、諦めなかったら、何かに必ず繋がると話し、個人ワークに移る。

3. 個人ワーク



発問：自分の目標に向かって、今自分ができていることを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「やると決めたことは最後までやる」「もっと勉強する」「部活で失敗しても諦めない」等

フレンドシップ：「仲間の事を考えて行動する」「練習で怪我をした友達を助けたい」「試合に出られない友達の分も頑張りたい」等

リスペクト：「給食を作ってくれる人に感謝し、食べ物にも敬意を払って美味しくいただく」「当たり前に行っていることを当たり前だと思わず周りの人と協力する」等



2. オリンピックの価値を伝える



4. まとめ



・東京でオリンピックが開催される際には、テレビで応援したり、競技のことを勉強したり、調べたりして、何かしらに関わって欲しい。挫折の話をしたが、本当の挫折とは辛い時に辞めてしまうこと、投げ出してしまうこと、最後までベストを尽くさないことが挫折だと思う。今日できることを探して、少しずつチャレンジして欲しいと伝え、授業終了。

実 施 内 容

■期 日 : 2020年10月19日(月)、20日(火)

■ク ラ ス : 8年B組(37名)、8年C組(37名)、8年D組(37名)

■オリンピアン : 田中 琴乃 先生(体操/新体操)【出場オリンピック/北京大会、ロンドン大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限、1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・リボンを回しながら登場。自己紹介の後、オリンピックバリューについて説明し、準備運動に移る。新体操は体が柔らかくないとできない競技なので、小さい頃からたくさん柔軟体操を行ったと話し、開脚して胸まで付くところや、バランス良く立つところを披露。次の主運動ではオリンピックバリューを頭に置いてやろうと目標を伝え、主運動に移る。

3. 主運動



・パラリンピック競技でもある「ボッチャ」のルールを説明。白色のジャックボールを投げてから赤、青のボールを各チーム全員が投げる。最終的にジャックボールの近くに投げたチームの勝ち。ゲームの途中作戦タイムを設け、投げる位置、順番、強さ等、工夫しながら3回戦実施。

4. まとめ



・ボッチャは老若男女、年齢を問わずできるスポーツであり、健常者も障がい者も、言葉が通じなくても一緒にできる。ゲーム中、応援しあい、全力で取り組み、ルールを守ってきたことは、オリンピックバリューに繋がる。次の座学の時間は、自身の経験を通してのオリンピックバリューについて詳しく話すと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限、2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・新体操を始めたきっかけは「内股、肥満体型、人見知りな性格」を改善するためだった。後にフェアリージャパン候補メンバーとの合宿生活の中で今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったことに気づき、家族や周りの人に感謝の気持ちを持つことや、オリンピック選手になるという強い気持ちを持つことは、オリンピックの価値に置き換えることができると伝えた。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：クラスをより良くするためにはどうするか

発表：エクセレンス：「夢に向かって頑張ることが大切」「話している人の目を見るように意識する」等

フレンドシップ：「仲間を大切に」「思いやり」等

リスペクト：「協力し、ルールを守る」「学校生活の当たり前で感謝する」等

4. まとめ



・オリンピックバリューは、決してオリンピック選手だけのものではなく、皆も日常生活の中で感じることができる。オリンピック教室で学んだことを行動に移し、お互いに思いやりを持って、大きく成長して欲しい。東京オリンピックの際は、新体操のテレビ解説をする予定なので、ぜひテレビで新体操を応援して欲しいと伝え、授業終了。

■ 集 合 写 真

8年B組



8年D組



■ 集合写真
8年F組



■ 記念品贈呈
8年B組



8年F組



8年E組



■ 修了証贈呈

